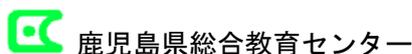


# 指導資料

## 国語 第105号

— 小学校、盲・聾・養護学校対象 —

平成18年5月発行



### 基礎・基本の定着を図る小学校国語科学習指導の充実

—平成17年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫—

鹿児島県教育委員会では平成15,16年度に引き続き、平成17年度「基礎・基本」定着度調査（以下「今回」という。）を実施した。

この調査は、学習指導要領が示す基礎的・基本的な内容のうち、「読み・書き・算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに、各学校の課題を明確にし、きめ細かな指導法の改善に資するなど、基礎・基本の定着を目的としたものである。

今回も、平成16年度「基礎・基本」定着度調査（以下「前回」という。）と同様に、小学校第5学年で国語、社会、算数、理科、中学校第1学年及び第2学年で国語、社会、数学、理科、英語について、各学年すべての児童生徒を対象に実施した。

そこで、本稿では、今回の国語科の結果を前回と比較しながら問題点について考察するとともに、基礎・基本の定着を目指す国語科学習指導法の工夫改善について述べる。

#### 1 定着度調査の結果と考察

##### (1) 結果の概要

前回と今回の各学年の平均通過率を比

較すると、小学校で約8%、中学校で約10%低い結果となっている（図1）。

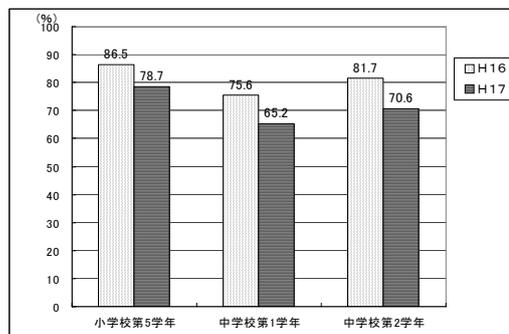


図1 平均通過率

小学校第5学年の結果を内容・領域別に見ると、他の内容・領域に比べて「文学的な文章」や「説明的な文章」、「構成力・効果的表現」が低くなっている。特に「説明的な文章」は16.5%、「構成力・効果的表現」は19.8%前回より低くなっている（図2）。

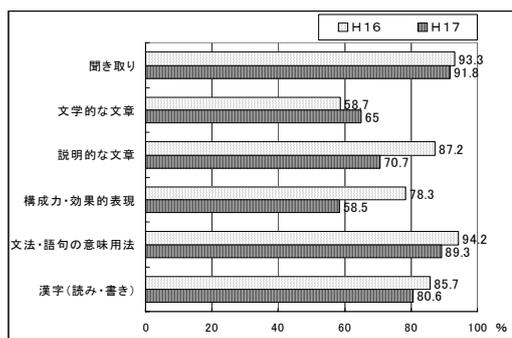


図2 内容・領域別平均通過率（小5）

また、観点別に見ると、「話すこと・聞くこと」と「言語事項」は前回とほぼ同値であるが、「書くこと」は19.8%、「読むこと」は9.4%低くなっており、定着の難しさが一層明確になっている。

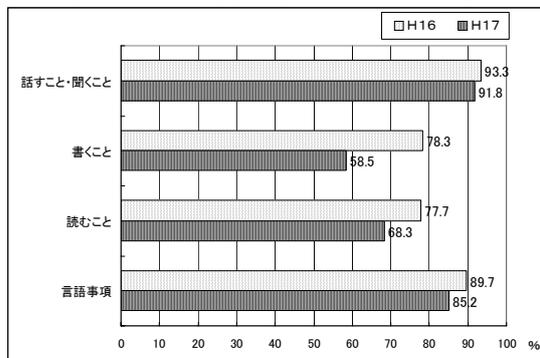


図3 観点別平均通過率(国語:小5)

これらの結果から、小学校では基礎・基本がおおむね定着しているものの、「書くこと」や「読むこと」においては指導を工夫する必要があると言える。

そこで、この二つの領域の設問に沿って、問題点を具体的に考察する。

(2) 「C 読むこと」の領域

ア ②中間三(通過率 50.3%)

これは、第5学年及び第6学年の内容「C読むこと」(1)ウ(以下、「C(1)ウ」と記す。)の指導事項について、登場人物の心情を表現や叙述と関係付けて読み取る力をみる問題である。

設問は、文中の□に当てはまる語句を、文脈から判断し選択するようになっている。問題文は次のとおりである。

【問題文】(前半部分を省略)

スポーツ選手みたいなランニングシューズがほしいなんて思ったことは、一度もなかった。バウといっしょに、ただ走るだけでおもしろかったから。

バウがいなくなった次の日から、ぼくは□子どもになった。

【選択肢】

- ① 一人で走る
- ② 元気に走る
- ③ 走らない
- ④ 走るのが好きな

正解は③「走らない」である。問題文は「ぼく」の視点から一人称で書かれ、心情を理解しやすくなっている。解答に当たって、文中の「～なんて」「一度も」「ただ～だけで」などの傍点部分に着目して「ぼく」の喜びを読み取ったり、愛犬の急死に動揺する心情を想像し、対比させたりする読み取りが十分ではないと思われる。高学年では、登場人物の心情を表現や叙述と関係付けて読み取ることが重点的な指導事項となっていることから、一層重視して指導に取り組む必要がある。

イ ③中間二(通過率 45.0%)

これは、C(1)イの指導事項について、文章構成や文末表現などの筆者の表現の工夫をとらえる力をみる問題である。

問題文は、450字程度の説明文で、視覚資料として二枚の世界地図がある。

文章は、「話題提示—説明—結論」の尾括型の構成で、文章と二枚の地図を対比しながら読むことで、要旨をとらえやすくなっている(図4)。

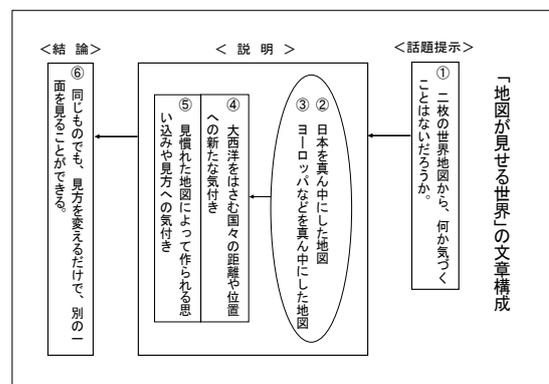


図4 文章構成図

設問は、当てはまらないものを三つの中から選ばせるものであるため、「頭括型」の選択肢が正解となる。ただ、通過率は5割に届いておらず、基本的な文章構成を理解する力が十分に定着していないと思われる。

高学年では、内容的に理解し、要旨をとらえる力を身に付けさせることが大切である。そのためには、各段落の要点や段落相互の関係を理解した上で、文章の全体的な構成を把握する力が必要となる。これは、中学年の指導内容と関わりが深く、高学年でも継続して指導を深めることが大切である。

また、このような力は、自分の意見を相手に伝える際に、文章構成や表現を分かりやすく工夫する力にもつながるものである。

### (3) 「B 書くこと」の領域

#### ア ④の問題 (平均通過率 59.6%)

これは、B(1)イ～エの指導事項について、自分の考えを明確に表現する力をみる問題である。ニュースを知る手段として、新聞とテレビのどちらがいいかを判断させるもので、条件等は図5のようになっている。

**【書くときの条件】**

内容を二つの段落に分けて書く。

〔第一段落〕  
自分の意見

〔第二段落〕  
その理由

**【考える手がかり】(吹き出し)**

新聞はいつでもどこでも読めるし、くり返し読むこともできるなあ。でも、テレビの場合、ニュースの現場にいるようにはく力があがるぞ。それに、新聞よりもニュースを早く知ることができるなあ。もっと他にもよさがありそうだな。いろいろと考えてみたい。

図5 書くときの条件と手掛かり

児童の解答を三つの観点から評価した結果は、次のようになっている。

- ① 意見と理由が明確である (64.8%)
- ② 二段落で構成されている (52.4%)
- ③ 意見と理由に整合性がある (61.6%)

これを見ると、生活経験等を基に自分の意見や合理的な根拠を明確にもとめようとする態度が十分ではないと思われる。また、書くときの条件に基づき、二段落目行頭の一字下げ等に注意して書く技能も定着しているとはいえない。

#### イ ⑤の問題 (平均通過率 56.7%)

これは、B(1)オの指導事項について、読み手の立場から文章を客観的に評価する力をみる問題である。

設問は、次の未完成の礼状を改善するために、必要な内容を選択肢から選ばせるものである。

毎日、寒い日が続いています。  
三上さん、お元気ですか。  
先日は、わたしたちの学校にまできて  
くださいましたね。  
わたしは、学級の竹とんぼ大会で一番  
になりました。  
三上さんにいろいろ教えていただいて、  
本当によかったです。  
では、さようなら。

二月十五日

村上たかし様

村田ひろこ

礼状を書く際には、書式を整えるだけでなく、お礼の気持ちが効果的に伝わるように表現を工夫していくようにすることが大切である。

問題文では、相手の姿を思い浮かべ、感謝の気持ちを具体的に伝える表現や、相手の健康を願う結びの文が不足している点に気付く力が求められる。しか